

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火	2	1
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	4	火	2	2
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	3	月	5	3
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	4	月	5	4
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	火	5	5
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	火	5	6
東洋史各論	清朝のモンゴル統治	2	岡 洋樹	5	水	4	7
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	金	2	8
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	金	2	9
東洋史各論	明清時代の諸問題	2	井上 徹	集中(6)			10
東洋史各論	唐宋時代の法と刑罰	2	徳永 洋介	集中(6)			11
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	水	5	12
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	水	5	13
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	金	4	14
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	金	4	15

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB32201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国明王朝 (1368-1644) の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科举制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 明王朝成立史 (1)
4. 明王朝成立史 (2)
5. 明王朝成立史 (3)
6. 官僚制度－中央官制 (1)
7. 官僚制度－地方官制 (2)
8. 明代中期の歴史 (1)
9. 明代中期の歴史 (2)
10. 例の成立 (1)
11. 例の成立 (2)
12. 明末政治史 (1)
13. 明末政治史 (2)
14. 明清交替の歴史
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB42202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国清王朝 (1616-1912) の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科举制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 清王朝成立史 (1)
4. 清王朝成立史 (2)
5. 康熙・雍正・乾隆時代史 (1)
6. 康熙・雍正・乾隆時代史 (2)
7. 康熙・雍正・乾隆時代史 (3)
8. 清朝文書行政 (1)
9. 清朝文書行政 (2)
10. 官僚制度－中央官制
11. 官僚制度－地方官制
12. 清朝後期史 (1)
13. 清朝後期史 (2)
14. 清朝の滅亡
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB31504, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N 〈 R e a d i n g 〉

3. 授業の目的と概要：

中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀（隋の時代について書かれた部分）の隋代末期の記述を取り上げる。受講者は、9 回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。

4. 学習の到達目標：

中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』について
- 2、隋代史概説
- 3、漢文語法概説
- 4、漢和辞典（小型のもの）を使ってみる
- 5、『大漢和辞典』、『漢語大詞典』を使ってみる
- 6、返り点、送り仮名をつけて漢文を読んでみる
- 7、『資治通鑑』の訓読、現代日本語訳の実例
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵の挙兵準備
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（2）李淵、王威らを斬る
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（3）李密の動向
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（4）李淵、突厥と結ぶ
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（5）李淵、西河を攻撃
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（6）李淵、大將軍となる
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（7）突厥、李淵に馬を送る
- 15、授業の総括と試験

6. 成績評価方法：

小テスト（1～7 回の授業時に実施）20%、発表内容（8～14 回）30%、試験（最終回）50%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957 年）。ほかは、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

8 回目の授業以降、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LB41505, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g)

3. 授業の目的と概要：

『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。4 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についても報告する。

4. 学習の到達目標：

学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』隋紀の関連史料
- 2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方
- 3、隋唐史関係研究論文の調べ方
- 4、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵の挙兵
- 5、『資治通鑑』隋紀講読（2）李淵と李密の連携
- 6、『資治通鑑』隋紀講読（3）李淵の進軍
- 7、『資治通鑑』隋紀講読（4）李軌の自立
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（5）薛举の自立
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（6）竇憲徳の活躍
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（7）李淵、霍邑を占領
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（8）李淵軍、龍門に到達
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（9）関中の群盗の動向
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（10）魏徴、李密に仕える
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（11）李密の勢力拡大
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト（1～3 回、最終回の授業時に実施）20%、発表内容（4～14 回）80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

8. 授業時間外学習：

4 回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。

9. その他：なし

東洋史基礎講読（3 セメスター）と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB52501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

Paul Heng-chao Ch'en 著” Chinese Legal Tradition under the Mongols” を題材にして、元王朝の法律制度を中心に、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題 I ー (1) 及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題 I ー (2) 及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題 I ー (3) 及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題 I ー (4) 及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題 I ー (5) 及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題 I ー (6) 及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題 I ー (7) 及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題 I ー (8) 及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題 I ー (9) 及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題 I ー (10) 及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題 I ー (11) 及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題 I ー (12)
14. 中国近世史の諸問題 I ー (13)
15. 中国近世史の諸問題 I ー (14) 及びまとめ

6. 成績評価方法：

レポート。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB62501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅰー(1)及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅰー(2)及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅰー(3)及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅰー(4)及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅰー(5)及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅰー(6)及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅰー(7)及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅰー(8)及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅰー(9)及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅰー(10)及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅰー(11)及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅰー(12)
14. 中国近世史の諸問題Ⅰー(13)
15. 中国近世史の諸問題Ⅰー(14)及びまとめ

6. 成績評価方法：

レポート。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：岡 洋樹 (兼務教員)

講義コード：LB53402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

清朝のモンゴル統治

2. Course Title (授業題目)：

The Qing Dynasty's Rule over the Mongols

3. 授業の目的と概要：

マンジュが建国した清朝 (大清国) は、17 世紀から 18 世紀半ばまでにモンゴル遊牧民の大半を支配下に入れ、中国農耕社会と遊牧民社会を統合し、安定した統治を打ち立てた。また清の支配は、ロシアの東進とともに現在に至る東北アジアの政治地図の原型を作ったという意味でも重要な時代である。本講義では、清朝のモンゴル遊牧民統治の成立過程と行政統治構造を、遊牧民社会の特質にも目を配りつつ考察することによって、東北アジア地域史におけるその歴史的意義を論じる。

4. 学習の到達目標：

清代のモンゴルについては、東北アジアの遊牧民史上、漢文のみならず、モンゴル文・満洲文の史料が多数残されている。清代は、漢文史料などの隣接地域の史料に依拠しなければならない北元期までとは異なり、遊牧民自身が残した史料を用いてその政治・経済・社会・文化を明らかにすることができるという点で、前近代遊牧民史中特異な時代である。本講義では、これらの史料を用いながら、遊牧民の社会を内在的に理解することを目的とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義では以下の内容を考察する予定である。

1. イントロダクション：清朝のモンゴル統治と民族語史料
清代モンゴル史研究で用いられる主な史料を紹介し、これまでの研究史を概観する。
2. 清朝のモンゴル統治：統治の構造とその歴史的文脈
3. 清朝のモンゴル統治：いわゆる「封禁政策」をめぐって
4. 清朝のモンゴル統治：清朝皇帝と王公たち
5. 清代モンゴルの歴史認識
6. まとめ：東北アジア史の中の清代モンゴル

6. 成績評価方法：

出席 (50%) とレポート (50%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

モンゴル史の概説

護雅夫, 岡田英弘編『中央ユーラシアの世界』民族の世界史 4、山川出版社、1990 年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002 年

島田正郎『北方ユーラシア法系通史』創文社、1995 年

清代の概説

岡田英弘, 神田信夫, 松村潤『紫禁城の栄光：明・清全史』講談社 (講談社学術文庫) 2006 年

石橋崇雄『大清帝国への道』講談社学術文庫、2011 年

清代モンゴル史の研究文献

田山茂『清代に於ける蒙古の社会制度』文京書院、1954 年

萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社、2006 年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東方書店、2007 年

そのほか

森川哲雄『モンゴル年代記』白帝社、2007 年

8. 授業時間外学習：

上記参考書などにより、基本的な知識を得ておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族制
- 4、西晋の貴族制
- 5、東晋の貴族制
- 6、五胡十六国における漢人士族
- 7、宋・齊の貴族制
- 8、梁の貴族制
- 9、陳の貴族制
- 10、北魏前期における漢人士族
- 11、北魏後期の貴族制
- 12、東魏・北齊の貴族制
- 13、西魏・北周の貴族制
- 14、隋・唐初の貴族制
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003 年）。ほかは、講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

隋唐時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、隋唐帝国と高句麗
- 5、則天武後の時代
- 6、玄宗の開元時代
- 7、玄宗の天宝時代
- 8、安史の乱
- 9、安史の乱後の情勢
- 10、徳宗の時代
- 11、憲宗の時代
- 12、牛李の党争
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997 年）。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：井上 徹 (非常勤講師)

講義コード：LB98809, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The Problem of Orthodoxy in Late Imperial China

3. 授業の目的と概要：

明代の広東は多民族・多文化が混在する辺境地帯であったが、明末清初までの間に漢族の儒教文化を中核とする一元的な社会へと変貌したこと(儒教化)を、宗族という男系血縁集団の動向を基点として、ヤオ族・チワン族などの少数民族、都市化・商業化、王朝の政策、郷紳など多様な観点から明らかにする。儒教化の際だった特色は、多様な産業をめぐって激化した争奪戦のなかで、郷紳を送り出して親族の結合を強め、科举官僚制を通じて国家と連携したことが競争に生き延びる最大の方策となった点であり、この競争に勝利した宗族は郷紳を抱える有力宗族

4. 学習の到達目標：

明清時代における地域固有の社会構造を解き明かす分析の方法を習得すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① ガイダンス
- ② 宗族分析の視角
- ③ 宗族研究の現状
- ④ 明朝の对外政策と両広社会
- ⑤ 民族反乱の勃発
- ⑥ 「華」はどのように「夷」を包摂したか？
- ⑦ 明朝の州県管理
- ⑧ 中国近世の都市と礼の威力
- ⑨ 石頭霍氏—広東の郷紳の家—
- ⑩ 霍氏と珠璣巷伝説
- ⑪ 霍輅による宗法システムの構築
- ⑫ 明末の商税徴収と広東社会
- ⑬ 明末の都市広州の搶米暴動と救済
- ⑭ 珠江デルタの郷紳と宗族
- ⑮ 総括と試験

6. 成績評価方法：

平常点 (30%) 試験 (70%)

7. 教科書および参考書：

教科書：プリント配布

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文、史料を精読すること

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：徳永 洋介 (非常勤講師)

講義コード：LB98810, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

唐宋時代の法と刑罰

2. Course Title (授業題目)：

Law and Punishment in China under the Tang-Song period

3. 授業の目的と概要：

唐朝が創りあげた精緻な官制や刑法の体系は、しばしば「律令体制」とも呼ばれ、わが国をはじめ、同時代の東アジア諸国家にも絶大な影響を及ぼした。八世紀なかばに集成された『六典』はこうした唐制の偉容を高らかに謳いあげるものであったが、ほどなく起きた安史の乱を経て、理念と現実の乖離は深刻の度を深めていった。その一方で、唐後半から南宋滅亡までの五百余年にわたる政治的な南北分断のなかで、つねに根幹的な法的権威を保ち機能していたのが唐の律や『六典』であった事実は注意されねばならない。換言すれば、唐宋時代を通じて、唐制の骨

4. 学習の到達目標：

唐宋時代の法と刑罰のあり方を通じて、「律令体制」なる言葉の虚実を把握するとともに、現代中国でもますます先鋭化している法と社会の関わりについても理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- ①漢律から唐律へー基本法典の成立ー
- ②律令格式の編纂ー唐代の副次法典ー
- ③刑統の時代ー律令法系の変容ー
- ④編勅から勅令格式へー宋代の副次法典ー
- ⑤用例破法と因例立法ー法の修正・追加の構造ー
- ⑥正刑と閏刑ー唐律の刑罰体系ー
- ⑦配流と左降ー律外の刑罰（１）ー
- ⑧杖殺刑の登場ー律外の刑罰（２）ー
- ⑨折杖法の成立ー五代濫刑の終焉ー
- ⑩配役と編配ー強制労働と強制移住ー
- ⑪神宗朝の刑法改革論ー『六典』的世界の再構築ー
- ⑫園土と拘鎖ー拘禁装置の多様化ー
- ⑬景迹と警跡ー隔離と監視ー
- ⑭唐律から明律へー近世後期の中国法ー
- ⑮まとめと展望、筆記試験

6. 成績評価方法：

講義の最後に行う筆記試験（70％）と平常点（30％）とをあわせて評価する。

7. 教科書および参考書：

必要な資料はプリントで配布する。

8. 授業時間外学習：

配布資料は事前に精読するとともに、講義中に紹介した参考文献には必ず目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB53503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き (史料の探し方や辞書・索引の使い方等) を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB63502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究Ⅱー (1)
3. 明清史料研究Ⅱー (2)
4. 明清史料研究Ⅱー (3)
5. 明清史料研究Ⅱー (4)
6. 明清史料研究Ⅱー (5)
7. 明清史料研究Ⅱー (6)
8. 明清史料研究Ⅱー (7)
9. 明清史料研究Ⅱー (8)
10. 明清史料研究Ⅱー (9)
11. 明清史料研究Ⅱー (10)
12. 明清史料研究Ⅱー (11)
13. 明清史料研究Ⅱー (12)
14. 明清史料研究Ⅱー (13)
15. 明清史料研究Ⅱー (14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55404, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、5 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. 学習の到達目標：

中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的手続きを理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記について
- 2、五胡十六国時代の概略
- 3、『晋書』載記の関連史料
- 4、『晋書』載記読解の実例
- 5、『晋書』載記を読む (1) 劉聡の晩年
- 6、『晋書』載記を読む (2) 劉粲の政治
- 7、『晋書』載記を読む (3) 靳準の乱
- 8、『晋書』載記を読む (4) 劉聡政権と陳元達
- 9、『晋書』載記を読む (5) 劉曜の人となり
- 10、『晋書』載記を読む (6) 劉曜の即位—前趙王朝の成立—
- 11、『晋書』載記を読む (7) 南陽王保の勢力
- 12、『晋書』載記を読む (8) 劉曜の隴右平定
- 13、『晋書』載記を読む (9) 氐・羌の動向
- 14、『晋書』載記を読む (10) 劉曜の政治
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1～4、15 回に実施) 20%、発表内容 (6～14 回) 80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』（東方書店「東方選書」2012 年）。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

5 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。

9. その他：なし

東洋史基礎講読 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底するとともに、必要に応じて先行研究批判も行う。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. 学習の到達目標：

漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について
- 2、『晋書』載記関連研究論文検証批判の実例
- 3、『晋書』載記を読む (1) 劉曜の政治に対する批判
- 4、『晋書』載記を読む (2) 劉曜の政治による災異
- 5、『晋書』載記を読む (3) 劉曜の氏・羌親征
- 6、『晋書』載記を読む (4) 劉曜による陵墓造営
- 7、『晋書』載記を読む (5) 劉曜、陳安を滅ぼす
- 8、『晋書』載記を読む (6) 前涼、前趙に服属
- 9、『晋書』載記を読む (7) 劉曜の後継者問題
- 10、『晋書』載記を読む (8) 劉曜と石勒との対峙
- 11、『晋書』載記を読む (9) 劉曜の子、劉胤の大単于就任
- 12、『晋書』載記を読む (10) 劉曜政権の人事異動
- 13、『晋書』載記を読む (11) 劉曜の仇池攻略
- 14、『晋書』載記を読む (12) 劉曜、石勒に大敗
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1、2、15 回の授業時に実施) 10%、発表内容 (90%)

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012 年)。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

3 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。

9. その他：なし

『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。